

害虫としてのブユ

吸血

豊かな自然に囲まれてハイキングや野外作業。そんな時に小さなハエのような虫が飛んできて吸血することがあります。それがブユです。

知らない間に吸血し、吸血されたところが、うっすらと血がにじむようなこともあります。

また、人によっては、吸血の後、大きく腫(は)れることもあります。

大原女(おはらめ)

京都市の北部に大原という地名の場所があります。昔、大原の女性が農作業や屋外の作業時に着用していた独特の装束が有名です。手甲、脚半を身にまとい、露出している皮膚がほとんどない、大原女と呼ばれる装束です。「日除け対策かな」と思いそうですが、実はブユの吸血から身を守るための装束であったといわれています。

退治の方法

幼虫は河川に生息しています。河川の幼虫を退治する方法の一つに殺虫剤散布があります。水の量を測り、その量に合わせた殺虫剤を一定時間散布するという方法です。しかし、河川は、多くの生物の生息地ですし、また、河川の水は、やがて池、湖、海へと流れます。環境や自然の保護の観点から、よほどの理由がない限り行うべきではありません。

また、河川の水際に繁茂した植物が河川に流れ込んでいます。そうした植物に幼虫が付着していることがあります。河川に流れ込む植物を刈り込んでしまうのも幼虫を棲(す)みにくくさせる方法の一つですが、これで吸血被害を大きく減らすことは難しいかもしれません。

忌避剤(きひざい)

「虫よけ」と呼ばれる忌避剤は、効果があります。服の襟元や袖(そで)等に吹き付けて使用します。直接、皮膚には吹き付けないでください。忌避剤には、使用説明書が添付されています。使用説明書をよく読んで、用法用量を守ることが必要です。

また、電池を使った携帯用の電子蚊取りがあります。効果的です。

長袖長ズボン

ブユが発生するような場所にハイキングに行くとき、野外での作業を行うときには、長袖長ズボンが基本の服装です。ブユ以外の蚊、ハチなどの吸血、刺咬(こう)防止の対策にもなります。